

マイタウン 2012年9月1日号に掲載

内科



福本 学

胃がんのリスクを調べる方法

胃がんのリスクを調べるための健診に、血液中のピロリ菌抗体とペプシノゲン値を調べる方法が利用されています。ピロリ菌の血清抗体で感染が確認され、ペプシノゲンの検査値から胃粘膜の萎縮が強いと判定された場合は、胃がんのリスクが高く、年に1回の内視鏡

あるいはX線検査が勧められます。逆にピロリ菌感染歴がなく萎縮もない場合は、胃がんになるリスクは低いのです。リスクが高いと判定されれば除菌治療が勧められ、胃がんの予防の点からみると、

その意義は年齢が低い方がより大きいので、特に若い世代に有用な健診といえます。一度はご自身のリスクを知ることが有用です。但し、治療によりピロリ菌が除菌されても胃がんのリスクがなくなるわけではないので、引き続き検診は必要です。

なお、ピロリ菌の検査や除菌治療に健康保険が適応されるには、胃潰瘍の既往などいくつかの条件があります。

内科

新百合山手福本内科

☎ 955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp>

